

# 教育・学生支援部の近況について

- I. 全学的教育・学習マネジメントの構築による高度教養教育の推進  
[高度教養教育・学生支援機構の設置(H26.4月)]
- II. 東北大学 学位プログラム推進機構の設置(H27.4月)
- III. 第3期中期目標・中期計画に向けた戦略的な取組
- IV. 青葉山新キャンパス学生寄宿舍整備事業計画
- V. 川内北キャンパスにおける施設整備状況



平成27年11月6日(金)  
東北大学人事交流者連絡会議

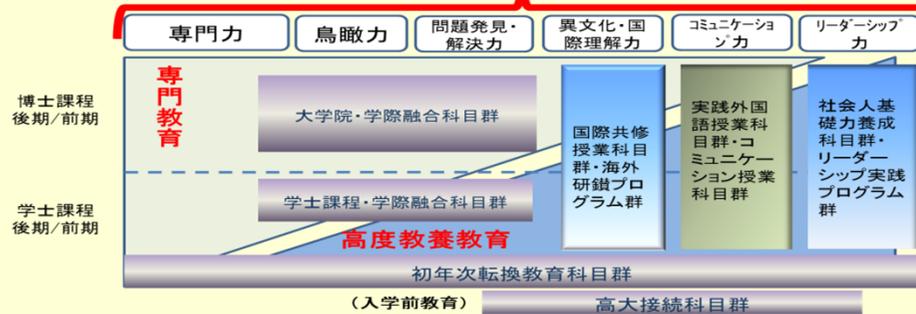
# 全学的教育・学習マネジメントの構築による高度教養教育の推進



## 東北大学が目指す「これまでにない高度教養教育」とは？

- 高大接続時から学部・大学院までを一貫する教養教育授業科目を開発・提供。
- グローバルリーダーが持つべき6つのキー・コンピテンシー(専門力、鳥瞰力、問題発見・解決力、異文化・国際理解力、コミュニケーション力、リーダーシップ力)を養成するため、学士・博士(前期・後期)の各課程に対応した高度な教養教育授業科目を実施。
- 機構組織に内包する教育評価分析センター等のIR機能を活用し、提供する授業科目等に対するPDCAサイクルを自己完結型として確立。

グローバルリーダーを支えるキー・コンピテンシーの醸成



## 具体的な取組内容

### ◇高大接続時から学部・大学院を一貫する教養教育プログラム

- ・「入学前海外研修プログラム」から博士課程対象の「研究型海外研鑽プログラム」までを一貫する「包括的国際理解プログラム」を実施。語学スキル・コミュニケーション能力や異文化・国際理解力の飛躍的向上を実現。

→海外留学体験学生を年間1,400名から2,000名に拡大！！

- ・本学が全国に先駆けて実施してきた異分野融合アカデミア養成プログラムに研究者倫理・リテラシー教育等を新たに加え、学部・大学院を一貫する「学際融合教育プログラム」を実施。鳥瞰力や問題発見・解決力を育成。

→学際融合科目受講者を1,800名から2,800名(学部学生は100%受講)に拡大！！

### ◇受動から能動へー学びの転換

- ・文系・理系学生を混在させた学部横断型の少人数クラス(1クラス15名程度)を編成し、自ら課題設定・調査研究・プレゼン発表までを行うPBL/IBL型授業を本格実施。問題発見・解決力を育成。

→展開ゼミを30クラスから90クラス(学部1年生全体の約50%に相当)へ拡大！！

### ◇その他主な教育プログラムにおける目標

- ・専門英語を全学部で開講。英語による授業を480クラス→700クラスへ拡大！！
- ・留学生・日本人学生の合同ゼミを14クラス(約350名)→60クラス(約1,500名)へ拡大！！

## 総長のリーダーシップによる教育研究組織の再編成

機構は、部門・室等からなる教員組織とセンター群からなる業務組織を合わせたマトリクス構造とし、教員の配置は固定せず、時代の要請に迅速に応える動的な組織として編成。

### 【旧組織】

(振替教員数67名)

- 高等教育開発推進センター (▲42名)
- 国際交流センター (▲3名)
- 国際教育院
- 教養教育院 (▲5名)
- 高度イノベーション博士人財育成センター
- グローバルラーニングセンター
- 国際文化研究科 (3専攻) (▲17名)

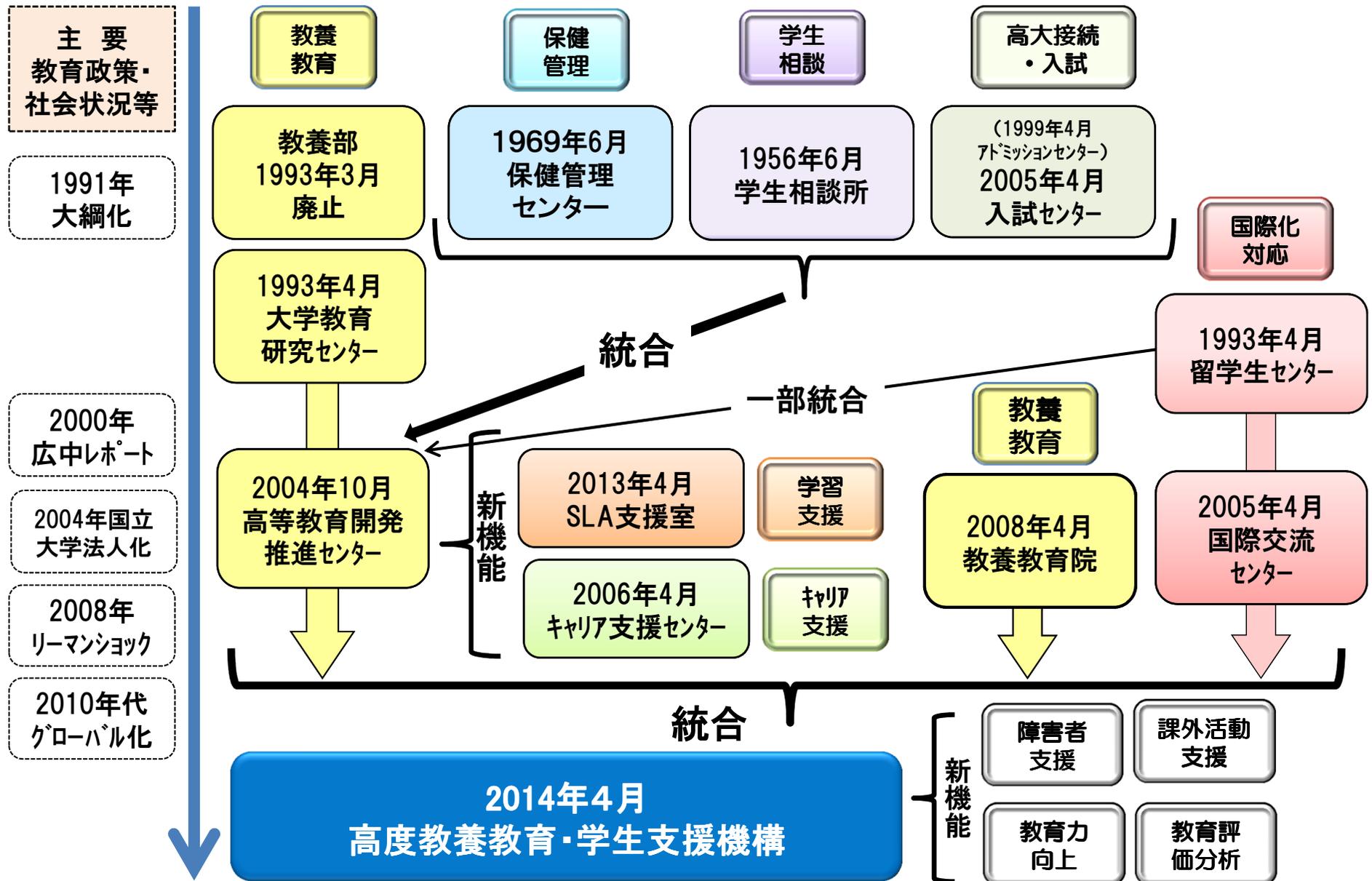
### 【新組織】



## 実践的かつ豊富な高度教養教育を修得した国際的人材を輩出

- 高度教養教育の提供を通して、高い倫理観と学際融合分野等の未踏領域にも果敢に挑むチャレンジ精神、世界トップクラスの大学生と同等のコミュニケーション能力を有する国際的なアカデミアを輩出。
- 高校からの「総合評価:10年連続全国1位」、「進学して伸びた:8年連続全国1位」(大学ランキング2015年版(朝日新聞出版))という高い評価を維持し、企業等あらゆる分野でリーダーシップを発揮しながら即戦力として活躍できる優れた人材を輩出。

# (参考) 全学教育体制の組織と機能強化の変遷



# 東北大学 学位プログラム推進機構の設置

## 学位プログラム推進機構 体系図

※H27年4月1日付 設置

機構長

副機構長(3名以内)

運営委員会(重要事項の審議)

### 国際共同大学院 プログラム部門

スピントロニクス, 材料科学,  
宇宙創成物理学, 環境・地球科学,  
データ科学, 生命科学(脳科学),  
災害科学・安全学

国際共同大学院プログラム部門長

- ・国際共同大学院プログラム教務委員会
- ・国際共同大学院プログラム学位審査委員会
- ・評価助言委員会

- ・スーパーグローバル大学創成支援事業における目玉事業の一つ。
- ・部局の枠を超えて本学の英知を結集し、海外有力大学との強い連携のもと、共同学位(DD/JD)の取得を目指した国際共同教育プログラムを推進。

### リーディングプログラム部門

グローバル安全学教育研究センター  
マルチディメンション物質理工学教育研究センター

リーディングプログラム部門長

- ・リーディングプログラム教務委員会
- ・リーディングプログラム学位審査委員会
- ・評価助言委員会

- ・文部科学省の研究拠点形成費等補助金により事業を実施。
- ・産学官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した学位プログラムを構築。

### 国際高等研究教育院

物質材料・エネルギー領域基盤  
外 5領域基盤

国際高等研究教育院長

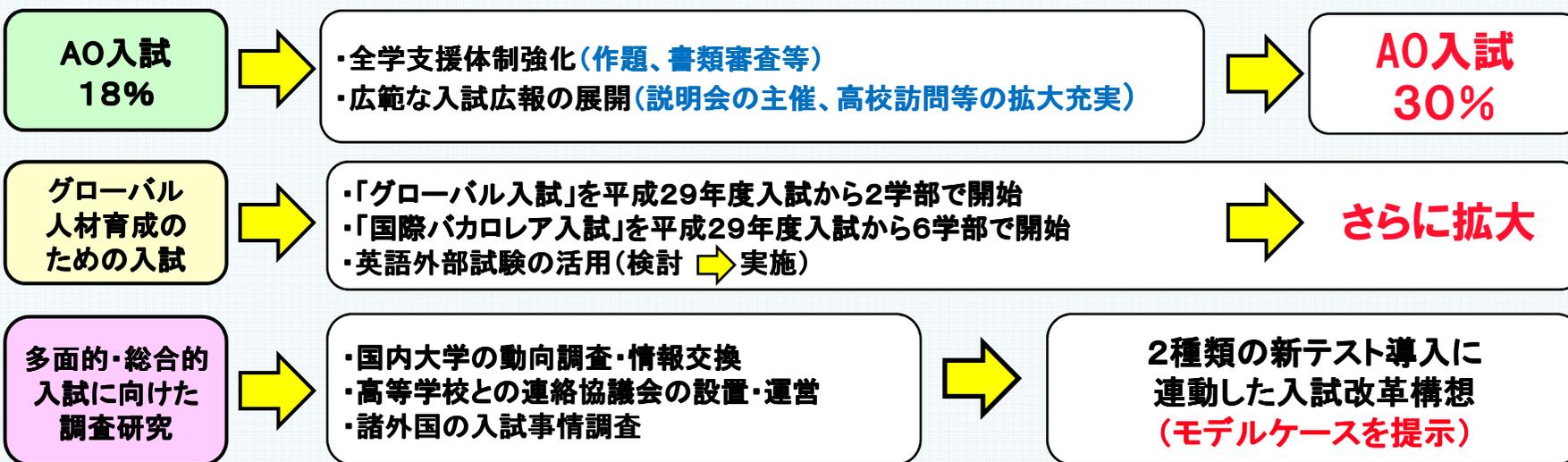
- ・運営専門委員会
- ・基盤長会議
- ・審査委員会
- ・総合戦略研究教育企画室

- ・異分野融合分野で卓越した知識と創造的な「総合知」の素養をもつ世界トップレベルの若手研究者(アカデミア)を養成。
- ・優れた大学院生を選抜し、奨学金と研究費を支援。

## 第3期中期目標・中期計画に向けた戦略的な取組

### ◆ 「多面的・総合的」評価に向けた入試改革の推進 —アドミッションポリシーに適合する入学者選抜方法の改善—

多面的・総合的評価に向けた入試改革を実現するため、国立大学最大規模のAO入試の更なる拡大(入学定員の30%に拡大)を図るとともに、グローバル人材育成のための「グローバル入試」等の導入、新テストに対応した個別試験のモデルケース提案のための調査研究を実施。



### ◆ 国際通用性の高い教育システムの開発

○「科目ナンバリング」を平成28年度から全ての授業科目に導入。

(※科目ナンバリング:教育課程の体系が容易に理解できるように、科目間の連携や科目内容の難易度を表す番号を付番するもの)

○「GPA(Grade Point Average)制度」を平成28年度から全学部入学者へ導入。

(※GPA:修得した成績の平均的な評価を数値化したもの。留学の際に提出を求められる場合がある)

○「学事暦の柔軟化」について、第3期中期目標期間早期に実施。

→平成29年度より数年間、1学期を2つに分けるクォーター制を試行する予定。



# 青葉山新キャンパス学生寄宿舍整備事業計画

## 学生寄宿舍(UH青葉山)イメージ



### ◆整備計画内容

- 規模: 18,500㎡程度、3～5階程度
- 戸数: 750戸程度
- 事業スキーム: PFI方式での建設を予定
- 完成予定: 平成31年3月末

区分	H32年度 (新UH整備後)	
	収容定員 ※上段( )書きは、 留学生用で内数	収容定員比率 ※国内学生: 留学生
UH三条	(130) 416	5:3(208戸) 6:2(208戸)
UH三条II	(135) 216	3:5(216戸)
UH片平	(30) 48	3:5(48戸)
<b>UH青葉山(仮称)</b>	<b>(470) 750</b>	<b>3:5(750戸)</b>
小計	(765) 1,430	
三条第一会館	(220) 220	
三条第二会館	(108) 108	
東仙台会館	(70) 70	
小計	(398) 398	
合計	(1,163) 1,828	

### ■留学生寄宿舍提供率

外国人留学生数: 2,300人 (H32年5月1日想定数)  
 提供率(混住): 33.3% (765戸/2,300人)  
 提供率(全体): 50.6% (1,163戸/2,300人)

UH青葉山(仮称)の整備により、外国人留学生等に対する寄宿舍提供率は、旧七帝大の中でトップクラスに!

# 川内北キャンパスにおける施設整備状況

地下鉄東西線 川内駅  
(H27.12.6開業)



新課外活動施設の整備  
(H28.3月竣工予定)



教育・学生総合支援センター  
(H27.3月完成)



川内キャンパスモール整備  
(H27.11月末 完成予定)

東北大学川内北キャンパス配置図 S=1/2500